

2022
6 - 7

NEWS LETTER

第 15 号

丹波市社会福祉協議会 柏原支所

topics

1



出張ふくし教室
開催しています

2



ひきこもる心の理解と地域で
できること ～福祉委員会～

3



注文をまちがえる喫茶店
だんない

1 出張ふくし教室 開催しています



社協では、地域について考える機会を持つために、地域や団体、学校、企業などへの出張ふくし教室を行っています。6月3日（金）は北山実りサロン様よりご依頼いただき「人生100年時代、これからの地域づくりとは？」というテーマで、なぜ今支えあいを進めているのか？これからの社会像とは？などお話をさせていただきました。

コロナ禍もあり、開催が難しい期間もありましたが、現在では団体や学校よりご依頼が続々と入ってきております。費用等は一切かかりませんので、お気軽にご相談、ご依頼いただけますと嬉しいです。よろしくお願いいたします。

2 ひきこもる心の理解と地域でできること ～福祉委員会～

近年、ひきこもりは社会的な課題となっており、丹波市でも国の調査をもとに約560人がひきこもりの状態にあると推測されています。

柏原地域では、福祉委員33名を対象に6月28日ひきこもり支援の研修を行い、講師の支援者からは現状と関わり方を学び、当事者からは当時の経験談を通して気持ちを理解する機会となりました。

ひきこもりの方は「誰かと関わりを持ちたい、理解してもらいたい」という気持ちがありながら、それを表現するのが難しいことを理解し、その人の思いを尊重し、つらい気持ちに寄り添うことを意識することが大切です。まずはあいさつから始めて、共感と寄り添う気持ちで話を聴き、必要に応じて専門窓口にご相談ください。



3 認知症当事者の方がスタッフとして活躍するカフェ 注文をまちがえる喫茶店「だんない」

今後の開店予定

9月9日（金）12：00～14：00 山カフェ

10月1日（土）12：00～14：00 山カフェ

① 設立のきっかけ

注文をまちがえる喫茶店だんない（以下だんない）は、認知症当事者家族の「認知症の人が主役となって活躍でき、楽しめる場所があれば」という声から生まれました。家族の声を聴いた社協と南部地域包括支援センターは当事者家族、地域住民で実行委員会を設立。実行委員会では「たとえ忘れても、間違えても、温かく受け入れてもらえるような、そんな場所を地域の中に創っていきたい」という想いを共有し、喫茶店の名称を「だんない」に決定。個人や企業からの賛助・寄付などの協力を得て、地域に根差した喫茶店を立ち上げることになりました。



② だんないを支えるコンセプトと地域基盤

進めるにあたっては、「当事者・家族の視点」と「地域との協働、継続事業」をコンセプトに置いています。そのために、南部地域包括支援センターが行う個別相談や医療介護連携、地域へのアウトリーチを活かした当事者・家族との信頼関係構築に努めるとともに、地域に根差した活動とするため、社協が進める地域のネットワークづくり、意識づくりをベースに、自治組織や民生委員で構成する「柏原地域支えあい推進会議」の協力のもと、企業への働きかけを行いました。同時に自治会長会などで認知症サポーター養成講座を開催し、認知症を受け入れる風土の醸成を図るなど、地域、企業、関係機関の重層的な協働基盤に支えられ、だんないは活動を行っています。



③ 開店・継続的な取り組みへ

地元飲食店を借り、当事者スタッフ・家族との入念な打ち合わせ、“まちがえない仕組みづくり”など、本番を想定したシミュレーションを経て、オープンしました。新型コロナウイルスの影響で、開店を見合わせる期間もありましたが、現在はテイクアウトで再開しています。SNSや口コミもあり、若者の来店も多く多世代交流も生まれています。「ここに参加することが楽しい！」参加された当事者スタッフや家族の方からも良い声を頂いているだんない。今後も認知症になっても活躍できる地域を目指し、社協のネットワークを活かしながら協働で進めていきます。



注文をまちがえる喫茶店 だんない
Instagram HP



発行元

(福) 丹波市社会福祉協議会 柏原支所
TEL 72-1236